

平成 13 年 10 月 17 日

国際石油開発(株)(インペックス)
東京都渋谷区恵比寿 4 丁目 1 番 18 号
代表取締役社長 松尾 邦彦

国際石油開発(株)(インペックス)のオーストラリアにおける探鉱活動の拡大について

【 1. オーストラリアにおける新規鉱区参入について 】

アルファ石油株式会社

(1)国際石油開発(株)(以下「インペックス」)はこのほど、豪州石油企業 Bass Strait Oil 社から VIC/P42 鉱区における権益 50%を譲り受けた (8 月 29 日譲渡契約調印、9 月 13 日政府承認)。

また、豪州石油企業 BHPP 社から VIC/P45 鉱区における権益 40%を譲り受けた(10 月 12 日譲渡契約調印、政府承認申請中)。

(2)両鉱区ともにオーストラリア連邦ビクトリア州沖合の原油・天然ガス生産鉱区が集積しているバス海峡に位置し、東西に隣接する海上探鉱鉱区である。

(3)インペックスはアルファ石油(株)(インペックスの 100%出資子会社)を通じて、両鉱区の探鉱・開発作業を推進して行くこととしている。

(4)アルファ石油(株)は西オーストラリア州沖合でグリフィン油田の生産を行っているほか、ヴィンセント等の既発見未開発油田を保有しており、 インペックスにとってインドネシアに次ぐコアエリアであるオーストラリアにおける石油・天然ガス開発活動の主たる担い手である。

(5)インペックスは本年 3 月に石油公団が保有するアルファ石油(株)の株式を全量買受け、同社をインペックスの 100%子会社としたことを契機に、 インペックスの第 2 のコアエリアであるオーストラリアにおいて同社を基軸として同国の税法等の特徴を生かした効率的、機動的な事業展開を図るとの基本戦略を明確にしており、 今次両探鉱鉱区の取得はこの基本戦略に沿ったものとしてその成果が期待される。

1.VIC/P42 鉱区は鉱区面積約 1, 876k m²(水深 50m－80m)で、メルボルンに本社を置く Bass

Stat Oil 社が 1998 年 5 月、オーストラリア政府より 100%の権益を付与された探鉱区である。

探鉱期間は 2006 年 1 月までであり、現在は探鉱第 2 年度(～2002 年 1 月)に当たる。今月後半には試掘井 Meleville-1 号の掘削を予定している。

本鉱区の権益比率は Bass Stat Oil 社 50%、アルファ石油(株)50%となる。オペレーターは Bass Stat Oil 社であるが、来年(探鉱第 3 年度)以降アルファ石油(株)が、オペレーターシップを取得するオプションを保有する。

2.VIC/P45 鉱区は鉱区面積約 870 平方 km(水深 70m－900m)の探鉱区である。

探鉱期間は 2006 年 5 月までであり、現在は探鉱第 2 年度(～2002 年 5 月)に当たる。

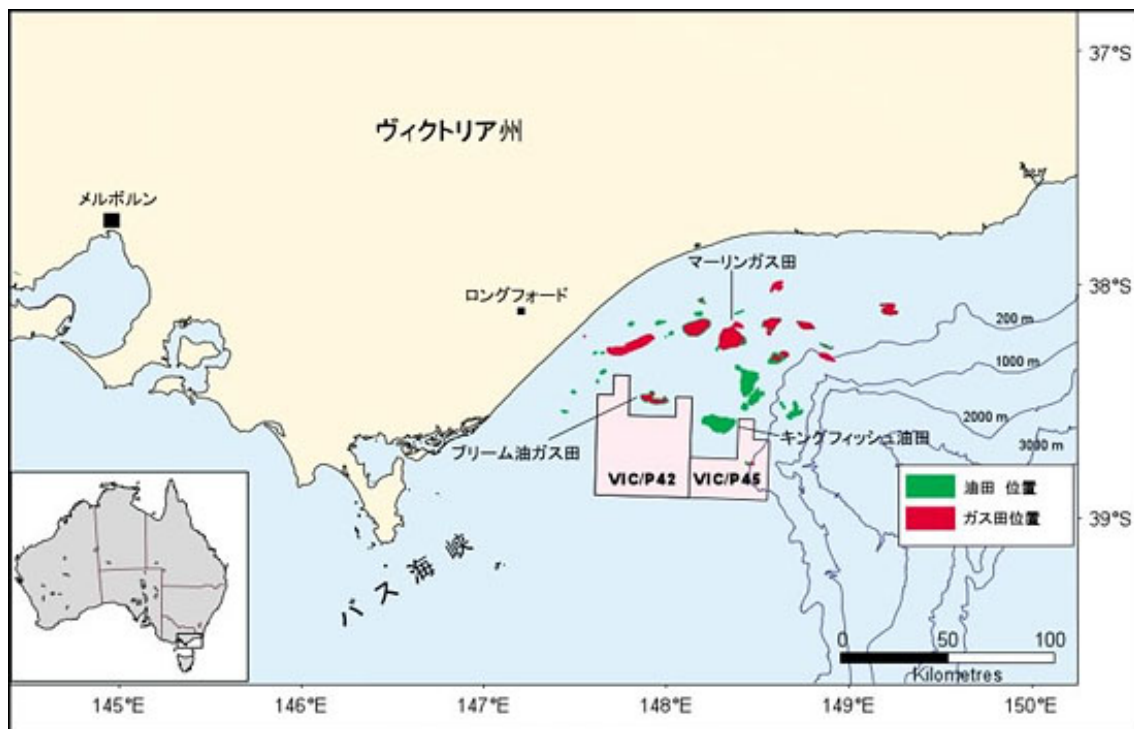
来年前半にも試掘を予定している。

本鉱区の権益比率はオペレーターである BHPP 社 60%、アルファ石油(株)40%となる。

なお、本鉱区取得を契機として、インペックスは同海域を含めた豪州における更なる探鉱・開発ポテンシャルを探り、有望鉱区での共同事業を推進するべく BHPP 社との協力関係を深め、共同スタディ等を実施してゆくことで基本合意している。

3.本海域では、1960 年代に探鉱活動が本格化し、キングフィッシュなど多くの大型油ガス田が発見されているが、これら油ガス田の近傍には、なお未試掘の構造や、ガスが発見されたものの発見当時の市場の見通し難等の判断から開発されていない構造が幾つか残されており、近年、今後の探鉱対象として改めて注目されるようになっている。

VIC/P42 および VIC/P45 両鉱区内にも未試掘構造が残されている他、VIC/P45 鉱区には、過去の試掘により、油が発見され未開発のまま残されている構造も存在し、今後の探鉱により更なる発見ひいては開発への移行が期待される。



【 2. オーストラリアにおけるオペレータープロジェクトの結果と今後の作業予定 】

インペックス西豪州ブラウズ石油(株)

インペックスは、インペックスグループの 100%子会社である インペックス西豪州ブラウズ石油(株)を通じ、オペレーターとして西豪州北西大陸棚 WA-285-P 鉱区において、1998 年以降探鉱作業を推進しており、これまで昨年从今年にかけて掘削した 3 坑の試掘井からガス・コンデンセートの産出に成功した。今般、その結果をとりまとめたので、本プロジェクトの今後の作業予定と併せて報告する。

1.1998 年 8 月より、インペックスはインペックス西豪州ブラウズ石油(株)を通じ、パース現地鉱業所を拠点として、オペレーターとして WA-285-P 鉱区の探鉱作業を実施している。本プロジェクトは、インペックスが 1997 年の入札により 100%権益を取得した後、インペックス西豪州ブラウズ石油(株)に譲渡したものであり、インペックスグループが豪州で実施する初のオペレータープロジェクトである。

2.WA-285-P 鉱区は、ブルームの北約 440km およびダーウィンの西約 800km の西豪州北西大陸棚 Browse Basin に位置し、鉱区面積は 5,050k m²、鉱区の水深は 90～340m である。

3.1998年に地震探鉱作業を行い、その解釈結果に基づき2000年から2001年にかけ鉦区北西部において3坑の試掘井掘削作業を実施した。その結果、全3坑井において産出テスト(DST)によりガス・コンデンセートの産出に成功している。この度、これら3坑井の作業結果をとりまとめたので、既公表の試掘1号井を含め一括報告する。

古代魚の名称を冠した各3坑井の試掘結果は以下のとおりである：

【ディニクティス-1号井(本坑井の試掘結果は既に公表済)】

産出テストを実施し40/64インチチョークサイズで、日量2,130万立方フィート(原油換算3,791バレル)のガス、並びに日量933バレルのコンデンセートの産出に成功した。作業上の理由(Operational Constraints)により、産出量は抑えた数字となっている。

【タイタニクティス-1号井】

産出テストを実施し、1インチチョークサイズで、日量4,060万立方フィート(原油換算7,227バレル)のガス、並びに日量2,305バレルのコンデンセートの産出を確認した。

【ゴルゴニクティス-1号井】

ゴルゴニクティス-1号井では、ディニクティス-1号井及びタイタニクティス-1号井で産出に成功したガス層の広がりを確認したほか、ディニクティス1号井およびタイタニクティス1号井では産出テストを実施しなかった深部層において産出テストを実施し、56/64インチのチョークサイズで、日量3,050万立方フィート(原油換算5,429バレル)のガス、及び日量202バレルのコンデンセートの産出を確認した。

4.今後の作業予定

現在、本発見構造に対し3次元地震探鉱作業等の評価作業を実施中。この作業結果に基づき、再来年に評価井を掘削したうえ、事業化の検討を行う予定。開発シナリオは未定であるが、インペックスが参加している近傍のバユ/ウンダンガス・コンデンセート田の開発例に見るように、当初にコンデンセート等リキッド分を開発する方式(ガスリサイクル方式)、ガスについては、従来型のLNGによる輸出や豪州国内向け生ガス販売に加えて、最近注目されているGTL、DME等の新技術の適用も検討対象に入ることが予想される。さらに、効率的かつ経済的な開発のため近隣海域の既発見未開発ガス田との共同開発の可能性も検討対象となろう。

